

平成30年1月22日

魚沼市議会議長 森 島 守 人 様

総務委員会

委員長 渡 辺 一 美

総務委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 所管事務調査について
(2) その他

- 2 調査の経過 1月22日に委員会を開催し、上記事件について調査を行った。
所管事務調査で、公共交通について及び入広瀬コミュニティバスの現状について執行部の説明を受け、質疑を行った。

総務委員会会議録

1 調査事件

(1) 所管事務調査について

・公共交通について

・入広瀬コミュニティバスの現状について

(2) その他

2 日 時 平成30年1月22日 午前10時

3 場 所 広神庁舎3階 301会議室

4 出席委員 佐藤敏雄、大平栄治、渡辺一美、高野甲子雄、大屋角政、遠藤徳一、
(森島守人議長)

5 欠席委員 大桃 聡

6 説明員 富永企画政策課長、桜井北部振興事務所長、廣井まちづくり室長、
小西地域づくり班係長

7 書 記 櫻井議会事務局長、磯部議会事務局次長

8 経 過

開 会 (10:00)

渡辺委員長 大桃聡委員から欠席の届出がありました。定足数に達していますので、ただいまから総務委員会を開会します。

(1) 所管事務調査について

・公共交通について

渡辺委員長 日程第1、所管事務調査についてを議題とします。資料が提出されておりますので順次説明を求めます。まず、公共交通について、執行部の説明を求めます。

富永企画政策課長 公共交通について、最初に少し説明をさせていただきます。魚沼市の居住地域における公共交通、鉄道、バス、タクシーとございます。この半世紀くらいを振り返ってみますと、人口の都市部への集中や少子化が利用者を減らし、ひいては鉄道やバスについては減便を余儀なくされている状況であります。市としては利便性を少しでも確保するため、乗合タクシーを走らせたり運行費を補助したりして、路線を維持してきたところでございます。直面する課題といたしましては、近年、全国的に問題となっております

が、運転免許証の自主返納された方の交通手段の確保ですとか、基幹病院への交通手段等について、市民にとっては便利とはいえない状況になっているわけでございます。ですので、今後この利便性を高めるために何か策が探ればいいと思いつつ業務を遂行しているところでございます。資料につきましては、担当室長のほうから説明を申し上げます。

廣井まちづくり室長 （資料「魚沼市の公共交通について」により説明）

渡辺委員長 これから質疑を行います。質疑はありませんか。

高野委員 小出地域の乗合タクシーで、予約で停留所方式ですが、特に冬場の関係については停留所まで行くこと自体が大変じゃないかという感じがしていますが、その辺はドアツードアにしていだけないかという要望はあがっていますか。

廣井まちづくり室長 現時点では、そのようなご要望は承っておりません。

高野委員 本仕様になってかなり経っていますが、ドアツードアの関係と停留所方式の関係が当初から問題になったんですけれども、そういうものを含めて制度そのものの周知がまだ足りないという話もありましたが、その辺、行政のほうも承知しているわけですので、その辺のPRの仕方の関係については、力を入れていく具体的にどうしようというのがあれば聞かせていただきたいと思います。

廣井まちづくり室長 先ほども最後に申し上げましたけれども、今は時刻表を配布しているだけという状況でございますので、今度は地域ごとにチラシなどをつくり、例えば老人クラブの集まり、地域の茶の間の集まり、そういったところに出かけていって、乗合タクシーのPRを行いたいと考えております。あと、まだこれはまちづくり室だけの検討段階ですけれども、集落支援員が集落に入ってさまざまな地域の課題をお聞きするというような活動を行っております。この集落支援員などとも絡みながら地域の声を拾い、それを反映させて制度改正を行っていくようなこともできるのではないかと考えているところであります。

遠藤委員 乗合タクシーの利用者数の推移ということでグラフ化、数値化されております。増えているところもかなりあるような結果になってはいますが、減っているところでは、例えば上稲倉～魚野地線のように大幅に減少している路線がいくつかあるわけですが、その辺の要因と今後の改良点については審議なされているか、その点はいかがでしょうか。

廣井まちづくり室長 正直申しまして、最後に利用者アンケートを取りましたのが26年、27年に一部地域だけのアンケートを取ったという状況になっておまして、その後は市民の声を聞き出すということが途絶えておる状況になっておますので、どういうことが原因でこのような状況になっているのかということについては、現状では把握してきていないということでもあります。

遠藤委員 地元の声ということでは、私も地域によく入った中では行き帰りの連絡がスムーズじゃないということと、小出地域への相互乗り入れができていないということから、堀之内に一旦停車後の小出の乗り入れの時間がだいぶ差があって、堀之内病院に通われる方はそれでいいんですが、また市街地に行ったときには、小出駅からしか発進がないということを含めて、小出方面に用足しに行くには不便があるという話を聞いております。公共交通網計画を新たに28年に策定する前にはアンケート等をしなくて、この計画が策定されたということでもよろしいですか。

廣井まちづくり室長　この計画については、アンケートをきちんと取って策定した経緯がございませう。

遠藤委員　室長のほうで26年が最後のアンケートと言われたが、その26年のアンケートがこれに反映されているということなんでしょうか。

廣井まちづくり室長　先ほど26年、27年と一部だけけれどもアンケートを取ったというのは、利用者の声ということで、遠藤委員が上稲倉線が減っているけれども利用者の声は把握しているのかということでご質問なされたので、一部地域しかアンケートは取っていないので、こちらの地域の利用者の声は把握していないというつもりでお答えをさせていただきました。計画を策定する段階では、全市民対象にアンケートは取りました。そのアンケートというのは、計画を策定するための市全体の公共交通網を考える上でのアンケートですので、事細かな上稲倉地域の利用状況等については把握していないということでお答えしたつもりです。申し訳ありません。

遠藤委員　住民サービスということの中では、弱者という部分にどう光を当てるかという観点で声を聞くということが大事だということがあった中で、どうしても中央化、拠点化されていく中で、末端以外の集落については、これからの免許返納も含めて、その辺をどう手厚くやるのか、それとも市の計画として、皆さんから街場に寄ってきてもらうという計画に移行した中で、この公共交通を考えていかなければならないのか、大枠の中で計画を打ち出していないと、いつまでたっても個人の思いというのは、不便になったという声が強まるばかりということと、利用率が減っているということは、そこに改良点があるのか、ないのかも瞬時に見聞をしながら策定をしていくことが大事なのかなという感じがいたしております。大幅に減っている路線は、何路線かに限られているようでありませうけれども、そういったところにてこ入れをきちんとしていただけたらと思っておりますが、その方策があるかどうかをお聞かせください。

廣井まちづくり室長　今後は市民の中に入って声をお聞きしながら、改正すべきところは改正していきたいと思っておりますので、その方向で進んでまいりたいと思っております。

遠藤委員　補助金の推移ということで、これも利用者は減っていく補助金は上がる。なかなか原資となる部分がいつまでもどのような出し方をしていくのかというのがありますし、恐らく県単の補助に当たるものも、今後利用者が少なくなってくると、県単に当たる部分もだんだん減って、市の単独負担も増えていく。負のスパイラルにならないような方策が必要ということで、補助金の今の使い方等について、利用者数も含めるんですけれども、今後こういったことが継続できるのかできないのか、その辺は執行部としてどのように捉えているんでしょうか。

廣井まちづくり室長　先ほど、説明の中で運行依頼路線と申し上げましたけれども、これは市がバス事業者に運行をお願いしている路線であります。通学、通院、買い物等で公共交通として重要な路線ということで補助金を支出して運行していただいている路線でありますので、こちらは市民の足としての路線ですから、これからも運行はしていただきたいと思っております。

富永企画政策課長　例えばバスのお話でございますが、生活交通ということで、生きるための足でございますので、徐々に減便されて、2時間バスが空くことがあります。見えないところから徐々に減っていきます。民間のバスといってしまうとそれまでなんですけれども、

行政でできるところは支援しながら、できるだけ継続して運行していただけるような努力をしていきたいと考えております。

遠藤委員 当然サービスを低下させるという意味ではなく、今後の計画の中で、今どうしても拠出が増えている。その後どう捉えている中では、この後出てくるのかもしれませんが、例えば実証実験から運行開始になりましたコミ協バスの運行なども前例としまして、例えば末端のエリアについてはコミ協バス展開をしていくから、その辺のことは負担も含めて若干減らしていく考えなんだとか、そういった将来的な話をお聞きしたいんですけど、その辺はいかがですか。

富永企画政策課長 民間のバス事業者の運行の状況を見ながら検討していきたいと思えます。コミバスはコミバスで運行のルールがございますので、それに反して運行するわけにはいきませんので、そういう状況でございます。

高野委員 先ほど少し言葉不足だったかもしれませんが、利用しにくいという声も若干聞かれますが、利用しにくい一つに停留所方式だとそこまで行くこと自体が大変だというのがあって、なんとかドアツードアにしてほしいという要望は何件か聞いております。もう一つは、行きはいいけれど帰りをどうしたらいいか。特に病院に行ったときに、診察時間が何時に終わるのが不確定でわからないので、往復の手続きとか、帰りのときにどうすれば一番使いやすいかということを知らせてほしいという要望があります。行くのはいいけれど帰りの乗合タクシーの利用の仕方というのを説明してもらえますか。

廣井まちづくり室長 乗合タクシーの予約の仕組みのところでも若干お話をしましたが、帰りについてもダイヤがありますので、乗りたいダイヤの運行時刻の1時間前にタクシー会社に予約をしないと乗れないという状況であります。高野委員がおっしゃったように、何時に診察が終わるかわからないという中では不便とは思いますが、現在の乗り合いタクシーがそういった仕組みになっておりますので、あくまでも1時間前の予約という中でお乗りいただくしかないということでもあります。

高野委員 そういう声があるということだけ承知していただければ。

渡辺委員長 ほかに質疑等はありませんか。(なし) 委員長職を副委員長と交代します。

佐藤副委員長 引き続き質疑を行います。

渡辺委員 5ページのところになるんですけども、新庁舎建設に伴う課題ということで、新庁舎に対してこれから検討していくことになるかと思えます。その中で一緒に、例えば買い物支援、支援もいろいろ考えなければいけないんでしょうけれども、小出の庁舎に来た後、買い物等も多少できるような形ですとか、そういったことも今後は考えていかなければいけないと思うと、ただ新庁舎に乗り入れするだけではなく、もう少し利便性を考えた乗り入れ方法があるかと思うんですが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

富永企画政策課長 委員のおっしゃることはよくわかりますが、まだ、市庁舎そのものを建設するほうの業務で手一杯でございます。バス路線どうするかというところまで、まだ話が及んでおりませんが、話し合いが始まりましたら、今のご意見を参考にしながら検討していきたいと思えます。

渡辺委員 確認ですが、再来年の5月、開庁になるかと思えます。逆算するといつごろから話し合いをして、これは国のほうとの連携もあるかと思えますので、そのあたりはいつごろから話し合いが始まる予定でしょうか。

富永企画政策課長　　まだ予定は立てておりませんが、例えばバス停を一つ設けるにもずいぶん許認可の手続きに時間がかかるということです、できるだけ早く着手したいと考えております。

渡辺委員長　　委員長を交代します。ほかに質疑はありませんか。(なし) なければ質疑を終結します。本件につきましては、引き続き調査していくこととし、以上といたします。

・入広瀬コミュニティバスの現状について

渡辺委員長　　次に、入広瀬コミュニティバスの現状について、執行部の説明を求めます。

桜井北部振興事務所長　　入広瀬コミュニティバスにつきましては、入広瀬コミュニティ協議会のほうで運行をしているものであります。10月1日に出発式を行いまして、10月2日から運行をしているところであります。運行状況ですが、当初、月水金と3日の運行の予定でしたけれども、プラス火曜日の午前中、診療所がやっておりますので、それにあわせて火曜日の午前中をプラスして3日と半日を運行しているところであります。乗車につきましては乗合タクシーのときの2倍から3倍くらい利用していただきまして、順調に進んでいるというところであります。このコミュニティバスにつきましては、地域の共助というところでお互いに助け合うという部分があります。そういったことで1軒1軒会員になっていただくということで、年2,000円の会費をいただいているんですが、その加入率ですけれども、まだ40%台で、若干少ないということで、これから市民の方のご理解を求めていくということが必要と考えております。これについてはコミュニティ協議会のほうで努力をしております、いろいろ考えているところであります。賛助会員につきましては、郷人会の入広瀬会等も協力をしていただきまして、だいぶ集まっているところであります。コミュニティ協議会のほうではお互いの助け合い、地域の活性化ということで、これを取り組んで、協議会の中にコミバス部会を設立して、それぞれ市民の声とか運行状況をどうするとかを検討して、一生懸命コミュニティ協議会では取り組んでいることを概況として申し上げたいと思います。資料については、担当係長のほうで説明いたします。

小西地域づくり班係長　　(資料「入広瀬コミュニティバス運行状況について」により説明)

渡辺委員長　　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

遠藤委員　　ふるさと入広瀬会の寄附額とその使途、今現在、まだ使い道とかは明かす状況ではないということでしょうか。

小西地域づくり班係長　　年度会費や寄附金につきましては、人件費の週3日を超えた部分について充当されることになっておりますので、もしコミュニティ協議会のほうでさらに運行日数を増やしたいといったときに、週3日を超える部分についてそれを充当していくような形で考えております。

遠藤委員　　差し障りなければ金額をお示しできるでしょうか。

桜井北部振興事務所長　　個人個人は差し控えさせていただきたいと思いますが、会長と連絡を取った中で、郷人会のメンバーにお願いをしていいということで、個々に通知を出させていただいて、賛同してくれた方からいただいております、郷人会まとめてということではないということです。

遠藤委員　　今後、全市展開という話も以前あったかと思いますが、いい結果を残した中でい

ろんなところに展開できればいいという感じがしております。これによって入広瀬は1番目の先進的な取り組みということですが、乗合タクシー廃止については、タクシー会社協会の民業圧迫等の声はあったんですか。

桜井北部振興事務所長 コミバスに至る経緯、途中ではやっぱりバス会社あるいはタクシー協会等といろいろな意見交換等があったことは事実であります。

遠藤委員 今後の展望の中で、全市展開あるいは市からの持ち出しを減らすための方策として、こういったことを進めなければならないような状況になったときに、やっぱりタクシー会社あるいは運行会社等との話はなかなか難しく、全市展開というのは今の段階では厳しい状況にあると予想されるでしょうか。

富永企画政策課長 コミュニティバスにつきましては、交通空白地域での運行ということが大原則でございますので、全市展開は想定できない状況であります。なお、コミバスをしようというときには、バス、タクシーの業者と十分な打ち合わせをし、了解をもらった中でないといけないということでございますので、頭の中に入れておいていただけるとありがたいと思います。

大屋委員 4ページに利用者の声がありましたが、この中で大白川方面を増やして2台で運行することが望ましいと、運転手、役員ほか、声があるんですが、そこら辺は庁内では検討されておりますでしょうか。

桜井北部振興事務所長 今そういう声があるということは聞いておりますので、今後の検討ということになりますけれども、まずはまだ始まったばかりですので当分の間は1台で運行をして、その中で実際に2台が必要かどうかという部分は確かめたうえで、その後、内部で検討して予算措置といった部分のほうに向かっていくと思っておりますので、バス1台、2台の関係あるいはほかの関係等もある程度の間、運行した中でいろいろ見直しはしていく必要があると思っております。この2台という部分で、やはり3方面運行しておりますので、そちらを運行してから大白川に行くということで、運行時間はどうしても制限されているということもありますので、今後、使い勝手といった部分を実際にできる限り1台の中でやってみて、今後、その部分を検証して検討していきたいと考えておりますので、今現在どうするということは考えておりません。

渡辺委員長 ほかに質疑はありませんか。しばらくの間、休憩とします。

休 憩 (11:13)

休憩中に懇談的に意見交換

再 開 (11:15)

渡辺委員長 休憩を解き、会議を再開します。ほかに質疑はありませんか。(なし)ないので、これで質疑を終結します。本件についても、引き続き調査していくこととし、以上といたします。

(2) その他

渡辺委員長 日程第2、その他を議題とします。執行部のほうから報告事項等はありませんか。

富永企画政策課長 ありません。

渡辺委員長 委員の皆さんからご意見、協議事項等はありませんか。

高野委員 きょうの朝、越後交通労働組合のほうから私のほうにFAXが入っておりまして、問題は、高速バスの十日町～新潟線が廃止になるということで、今対応しているということが入りまして、幸いきょう総務委員会で公共交通の関係もありましたので、これは大変なことだということで、何とかしなければならぬだろうということで、あまりにも急でどうするかという話もならないかもしれませんが、これについてぜひ議員の皆さん、行政のほうからも考えていただきたい。できれば対応していただきたいということで情報提供です。1点確認させていただきたいのは、市のほうに越後交通のほうから廃止にすることは話が来ていましたでしょうか。

富永企画政策課長 事業者からではなくて新潟県から来ております。余談になりますが、なくされては困るという姿勢で今取り組みを始めたところであります。

高野委員 わかりました。私個人的にも非常に大変なことだということもありまして、ぜひ行政のほうからもしていただきたいと思えますし、議会のほうとしても請願を出すなり何なりと考えていただければということで、一応情報提供という形で話しさせていただきました。

渡辺委員長 企画政策課長に確認ですが、今、市としても廃止しない方向でということで検討が始まっていると聞かせていただいた。

富永企画政策課長 関係市町村で事業者に申し入れといいますか、相談をするという行動をこれから起こす準備をしています。

渡辺委員長 承知しました。高野委員、このことにつきましては情報提供いただきありがとうございます。企画政策課のほうでも対応を検討中ということですので、このことにつきましても、様子を見ながら随時、市のほうと連携しながら調査させていただければと思います。皆さん、それでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）そのほか協議事項等はありませんか。（なし）ないようですので、以上でその他を終わります。本日の会議録の作成については委員長に一任願います。本日の総務委員会はこれで閉会といたします。

閉 会（11：19）